

令和2年度 徳島県立徳島北高等学校 学校評価総括評価表

1 本校の学校経営の基本方針

生徒がはたつと活動する活力ある学校づくりと保護者・地域社会から信頼される学校づくりに取り組み、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を身に付けることができる教育の実現に努める。

2 本年度の重点目標

- (1) 自ら学ぶ姿勢と自主的・自律的な行動力を育成する。
- (2) 人権を尊重する豊かな心を育成し、好ましい人間関係を築かせる。
- (3) 授業の工夫・改善と充実を努め、確かな学力を身に付けさせる。
- (4) 生徒一人一人の個性や創造性を伸ばさせて、進路希望の実現をめざす。
- (5) 国際的視野を持ち、地域社会に貢献できる人材を育成する。

3 本年度の各課の取組

ア 企画課

* 総合評価：目標を大きく達成…A, 概ね目標を達成…B, 目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評 価		学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 総合的な学習/探究（K-TOP）の時間の充実を図る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	学校関係者の意見 K-TOPアンケートの「満足していない」と回答した生徒に対して、なぜそう思っているのかを分析し、学校として改善策を考えるべきである。	K-TOP（探究の時間）の目的を生徒に十分説明する必要がある。また、指導する教員の共通理解が欠かれない。そのため、職員研修等を実施し探究の時間の目標、本校のK-TOPの目標を共有し、生徒につけるべき力を周知することが大切である。
	①探究活動が生徒にとって充実したものであったか、当初の目的が達成されたかをアンケートを実施し調査する。「とても満足している」「まあまあ満足している」と回答する生徒が90%以上である。	①授業満足度は全体で、「とても満足している」「まあまあ満足している」と回答した生徒が、90%であった。	(評定) B		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 本年度は、臨時休業期間が長く、計画を修正しなくてはならなかった。課題研究については、目的を達成できたのではないかと思う。		
2 効果的なICT機器の活用及び、生徒の主体的な学びを推進するため、授業改善を図る機会を作る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		授業でのグループワーク、ペアワークやピア・インストラクションなどの活動が十分できない状況である。主体的な学びをどのようにするかを検討する必要がある。
	①ICT機器を使った授業は、あなたの興味・関心を高めている」と回答した生徒の割合が90%以上である。 ②授業評価アンケートの実施と分析方法を改善する。	①「ICT機器を使った授業は、あなたの興味・関心を高めている」と回答した生徒の割合は、昨年度78.4%から3.4ポイント増の81.8%であった。 ②授業評価アンケート質問項目の改訂と実施分析方法を改訂した。	(評定) B		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 休業期間中、家庭での主体的な学びを推進するためオンライン講座を実施し、教員の研修会等も行い、改善に努めた。		
	①授業改善週間等を利用し効果的活用とアクティブラーニング型授業を推進する。 ②授業評価アンケート項目と実施集計方法を見直す。	①コロナウィルスの影響により、ペアワークやグループワークを推進することができなかった。 ②授業評価アンケートの項目や集計方法は見直しをした。			

イ 総務課

* 総合評価：目標を大きく達成…A, 概ね目標を達成…B, 目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評 価		学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 PTA行事を精選し、内容を充実させることにより活性化させる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	学校関係者の意見	今年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、様々な会議や行事が縮小・中止となった。校内の活動においても、PTA総会が書面総会となった。体育祭のPTAバザーが縮小化された。しかし、PTA会員の協力と理解の中で、限られた範囲ではあったが、PTA活動を継続することができた。 次年度は、第63回中四国高P連徳大会が開催される。有意義な会が実施できるよう、体制を整えていきたい。
	①生徒の新しい時代を生き抜く力の育成を支援するために、保護者において有効な情報を5件以上提供する。 ② PTA役員の負担軽減のために、PTA役員関連の行事（第2回理事会・幹事会）の見直しを図る。	①行事の中止や規模の縮小が多くあり、目標とする5件以上には達していない。 ②PTA役員関連行事（第2回理事会・幹事会）の見直しを行った。	(評定) C		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 行事の中止や規模の縮小が多くあり、有効な情報の提供は、目標とする5件以上には達することができなかった。しかし、「PTA活動についての連絡は適切である」の問いに対して「よ		
	①保護者に有効な情報を、ホームページ等において知らせる。 ②PTA役員の連絡調整をスムーズに行うために、PTA専用	①「全国高P連会報第90号」及び「第9回高校生と保護者の進路に関する意識調査報告書」「あいぼーと講座多様な性ってなんだろう」等			

	メールアドレスの登録を50%以上とする。	について、ホームページ上に掲載することはできたが、行事の中止や規模の縮小が多くあり、目標とする5件以上には達していない。 ②PTA専用メールアドレスの登録は50%以上の登録があった。	くあてはまる」「ややあてはまる」と回答した保護者が81.3%であった。また、PTAの行事変更などの連絡についても、メールを有効に活用して連絡することができた。	
--	----------------------	--	---	--

ウ 教務・情報課

*総合評価：目標を大きく達成…A，概ね目標を達成…B，目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評 価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 生徒の多様な進路目標の実現につながる教育課程を編成することで、主体的に学ぶ意欲・態度を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	本校の9割以上の生徒が、大学進学を希望している実態を踏まえ、関係学年・課との連携を図り生徒の進路希望把握に努める。また、大学入試改革（共通テスト等）や新学習指導要領に対応するため、適宜、教科会や教育課程検討委員会、職員会議を開催し、教育課程の編成に細やかに対応したい。生徒の実態や大学入試制度改革への対応を図りつつ、幅広い進路志向に柔軟に対応できるよう教育課程を常に見直していく必要がある。そのため、各学年や関係する課との連携を図り、学校全体で見直しを図ることができる体制づくりが重要である。
	①本校の教育課程について、「生徒の進路目標に対応し、個性を伸ばし将来の希望を実現できるよう工夫されている」と回答した割合が80%以上である。 ②教育課程検討委員会、職員会議等の開催回数を学期に1回以上確保する。 ③教科会の開催回数を月に1回以上確保する。	①本校の教育課程について、「生徒のニーズや希望を実現できるように工夫されている」と回答した者 (R1→R2最終の比較) ○教員 90.7%→92.7% ○生徒 84.3%→86.3% ○保護者 86.4%→85.4% ②職員会議、教育課程検討委員会は学期に各1回以上確保できた。 ③教科会は各教科1回以上はできなかったが、必要に応じて開催された。	(評定) B (所見) コース・科目選択については、予備調査を6月、9月、10月と3回実施したり学年集会での周知、該当生徒を集めての説明会と複数回にわたり、説明し、データ分析等を実施した。しかし、多様な生徒の希望に対応できるよう教育課程で自由選択科目を設けているが、少人数での開講が希望に沿えないという問題点がある。また、本年度も時間割の中に各教科会の時間を設け、教科会の開催しやすい環境を作った。	
	活動計画	活動計画の実施状況		
2 生徒の目標を明確にさせ、主体的に学ぶ姿勢を育成することで、学習意欲の向上や学力向上を図る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	基礎学力不足や、学習意欲不足、明確な目標を持たずに入学してくる生徒の増加が課題である。各課や学年と連携を密にし、適切な時期に学習に対する意欲付けや進路目標を設定できる機会を設けられるよう、行事計画を見直すことも重要である。また、学習習慣の定着を図り、基礎学力を定着させるために、各教科、学年、各課の連携とともに、家庭との緊密な連携が必要である。
	①教員において、「教科指導における基礎基本の徹底を図っている」と回答した者及び「学習意欲の向上や学力向上への取り組みができて」と回答した割合が95%以上である。 ②各定期考査において、欠点保持者数が10%以下である。 ③各定期考査において、成績優秀者（80点以上）の割合が、20%以上である。	①教科指導では、「基礎や基本の徹底を図っている」と回答した教員。 (R1→R2最終の比較) 100%→98.3% 学習意欲の向上や学力向上への取組ができていると回答した教員。 95.3%→94.7% ②各学期末における欠点保持者の人数の割合 (1学期末→2学期末) 1年(8.3%→7.2%) 2年(9.0%→8.4%) 3年(0.0%→7.4%) ③各学期末における成績優秀者（80点以上）の割合 (1学期末→2学期末) 1年(22.8%→20.9%) 2年(32.5%→28.3%) 3年(51.6%→33.7%)	(評定) B (所見) 全学年で、欠点保持者数は10%以下である。また、2・3年は各学期において成績優秀者25%以上を達成できた。しかし、欠点をとる生徒の固定化や複数の科目での欠点など個々への対応が年々必要になってきており、基礎学力や学習習慣が十分身につけていない生徒への対応が急務である。	
	活動計画	活動計画の実施状況		
	①授業改善週間を設けて（年間2回）、各教科における目標や効果的な指導方法等についての研究・改善を行う。その際、授業評価を行うことで、指導方法の工夫や授業力の向上に努めるとともに、本校生徒の実態や課題について共通理解を図る機会を確保する。	①授業参観週間を1学期、2学期にそれぞれ2週間実施した。教科の教員と希望者による授業見学・評価を実施し、評価シートに所見を記入し授業力向上を図った。また、教科内でICT機器を活用した授業の研究を行った。		

	②各学期末考査前に「弱点教科補強指導講座」を開講し、苦手科目についてのポイントを指導することで、家庭学習の援助を行う。また長期休業中に「基礎学力養成講座」を開講し、基礎基本の定着に焦点を絞り、苦手科目の克服への援助を行うことで、欠点保持者数を減少させる。 ③集会等の機会を捉え、継続的な学習及び意欲の向上についての啓発を行う。	②1学期末考査及び2学期末考査の前1週間に「弱点教科補強指導」を開講した結果、中間考査に比べて期末考査の欠点者数の減少につながった。しかし、学期間では1学期に比べ2学期は欠点者の増加がみられた。 ③学年集会や学期末の各課連絡の機会を生かし、学校生活や学習習慣、学力向上等についての啓発を行った。			
3 生徒が明確な目標を持ち、主体的に学ぶ態度の育成ができる学習環境づくりや学校運営を行う。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		面接週間は、短縮授業とし会議を設定しないよう配慮しているが、十分な時間とはいえない。生徒の進路目標や学習実態把握等の生徒理解や、適切なサポートができるよう、今後も行事計画の見直しや精選、関係学年・課との連携を図り、調整をする必要がある。生徒理解に充てる時間確保のため、校務の情報化や見直しなど学校全体で検討することも必要である。
	①年間行事計画を見直し、生徒の進路目標等、生徒理解が可能なように年間3回の面接週間を確保する。 ②1・2年の年間授業時数が法定時数の85%以上である。	①各学期1回の面接週間（1週間）を確保した。 ②令和2年度のデータはなし 令和元年度は1年 79.1% 2年 82.0% 平成30年度は1年 85.6% 2年 83.4%	（評定） B （所見） 年間3回の面接週間の確保や各月1回の校務運営委員会は達成できた。また、年度途中のためデータはないが、本年度は4月・5月の臨時休業があったが、夏季休業を2週間にするなど授業確保に努めたので、1ヶ月臨時休業だった昨年並には授業確保はできたと思われる。 学校支援システムについては、システムの操作性も年々良くなり、ほぼ円滑に運用できるようになった。		
4 学校支援システムの適正運用に努める。	活動計画	活動計画の実施状況			
	①面接週間をはじめ、担任等が十分生徒理解に努められるよう、行事の見直しや校務の精選、学校支援システムの研究に努める。 ②各課・学年等と連携を図り、日程等を調整することで、授業時数確保に努める。また、月曜日の授業については、特別時間割に組み込むなどバランスをとる。	①面接週間は5分短縮授業とし各課・学年等と日程を調整し、面接週間に他の予定を入れないように配慮した。 ②各月1回の校務運営委員会の機会を捉え、行事予定を月単位で見直し、円滑な学校行事運営に努めた。また、特別時間割で実施授業数の調整を図れるように計画した。			
	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		学校支援システムを活用するために、出欠処理や成績処理以外の機能などにも、常により理解を深めるよう努めていく必要がある。
	①期限までの出欠入力率が100%である。 ②期限までの学事処理率が100%である。	①期限までに全て完了した。 ②期限までに全て完了した。	（評定） B （所見） 帳票がスムーズに出力できるよう、出欠未入力について連絡を毎週行っている。		
	活動計画	活動計画の実施状況			
	①1週間単位で出欠未入力を連絡する。 ②入力方法についての研修や案内をテスト時や期末に必要なに応じて行う。	①毎週実施した。 ②中間考査時に研修を実施した。			

エ 国際交流課

*総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価		学校関係者評価	次年度への課題と方策
Ⅰ 徳島北高校において様々な国際交流を提供し、グローバルマインドを持った生徒を育てる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	学校関係者の意見 海外語学研修ができない場合には、リモートでの研修に切り替える方法も検討する必要がある。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、諸行事がオンライン形式となった。海外生徒とのオンラインによる交流をより円滑にするため、ソフト面・ハード面での条件整備を課内で行うことが重要である。
	①異文化学習の機会を年間3回以上提供する。	①「グローバルクラスメイト」事業、「グローバル・オープンキャンパス」事業、「外務省高校講座」の3事業を実施した。	（評定） A		
	活動計画	活動計画の実施状況	（所見） いずれの交流においても、挨拶や表面的な交流にとどまらず、国際社会問題や個人的な事柄など様々な知識を背景にした意見交換を意欲的にすることができた。		
	①外部より講師等を招いて、グローバルな視点に立った考え方を受容するとともに、発信の練習をする。 ②海外からの訪問団を積極的に受け入れ、国際英語科、普通科ともに多くの生徒との交流の機会を計画する。 ③海外高校生とのICT交流を通して異文化理解を深める。	①「外務省高校講座」において、外務省職員から国際情勢やモンゴルの文化、日本国政府のSDGsの取り組み事例等についての講演会をオンライン形式で実施。また、四国大学のマーク・フェネリー先生を迎えてディベートの授業を実施。身近なことについて幅広く英語で意見を述べたり説明したりする機会を持った。 ②長期留学生としてフィリピン高校生1名、バングラデシュ高校生1名が来校し、交流。 ③「グローバルクラスメイト」事業として、アメリカ高校生とICTを用いた交流を実施。また、長期留学生2名とのオンライン事前交流を			

2 校外において豊かな国際交流の機会を提供し、グローバルマインドを持った生徒を育てる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	海外の担当者が、異動や退職により変更となった。また、担当者が新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、リモートワークの場合が多かった。限られた時間の中で、こちらの意図をしっかりと伝えるためにも、よい関係を引き続き保つことが肝要である。 年度当初より計画的に実施準備を進めたい。
	①海外研修（語学研修・派遣を含む）の参加者を50名以上にする。	①新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、受入国の入国制限があり、実施できなかった。	（評定） C	
	活動計画	活動計画の実施状況	（所見） 今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、オーストラリア語学研修及びニュージーランド語学研修の両方が中止となった。現地担当者との連携を密にし、次年度の日程調整や代替案の検討に努めた。また、本年度、本校生で長期留学をした生徒はいない。	

オ 図書課

*総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評 価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 図書館の利用をとおり、学力の基盤となる読書習慣の育成を図り、将来にわたって主体的に学ぶ態度や読書を楽しむ態度を身に付けさせる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	授業で活用したことをきっかけに、自主的な調べ学習や読書活動に結び付けたい。主体的な学習をするには様々な資料や情報の窓口としての図書館活用が有効なはずである。広報活動もさらに工夫し、個人での利用促進にも努めたい。 総合的な探究（学習）の時間の活用の幅はさらに広げる必要がある。 3学年のクラス読書会を5月に計画していたが、休校期間と重なり、スケジュールの調整も難しく、実施できなかった。次年度は、全学年において実施できるよう計画したい。 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入館時の手指消毒の徹底や生徒が図書館利用した後の拭き取り消毒の実施に努めたが、図書館利用の促進を図りながらの防止対策を計画的に進めたい。
	①一人当たりの図書館の年間利用回数が、8.0回以上である。 ②授業での図書館利用が、年間80回以上である。 ③各教科や総合的な学習（探究）の時間に、図書館を利用した授業や図書館の本を活用した授業を推進する働きかけを学期に1回する。	①入館者（1月まで）は、令和元年度が9,549名、令和2年度は7,746名である。本年度の一人当たりの図書館の年間利用回数は8.5回で、目標は達成できたものの昨年度より大幅に減少している。 ②授業での図書館利用も50回と、昨年度の半数以下に減少し、目標が達成できなかった。 ③図書館や図書館の本を利用した授業の推進を図ったが、団体貸出数は昨年度の3分の1以下に減少し、総貸出数も8割以下に減少している。原因の一部として、新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校が考えられる。	（評定） B （所見） 「図書館だより」「新着図書案内」の教室掲示やホームページでの広報、各読書関連行事での読書推進活動、図書館内外の展示の工夫等、継続的に読書推進に努めたが、コロナ禍の中で入館者数、総貸出冊数、団体貸出数、授業利用のすべてにおいて昨年度より減少した。 高校生の読書時間が減っている傾向は続いており、減少の原因を新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校だけに求めるのではなく、さまざまな工夫で生徒の自主的な読書活動を推進していく必要があると痛感している。	
	活動計画	活動計画の実施状況		

		③(ア)(イ)2か月に1回発行する「図書館だより」に各学年ごとの貸出冊数BEST3を掲載してクラスとしての読書活動推進を考えてもらった。 ③(ウ)粘り強い指導が必要であったが、多方面からの働きかけで成果が見られた。			
2 生徒が新聞記事を読み活用するきっかけづくりをする。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		家庭では新聞を読む機会をあまり持っていない生徒が多いようであるが、読み活用することは有意義であると捉える生徒は8割を超えている。次年度も活用していく場所として図書館を機能させていきたい。また、読みやすい設置場所をさらに工夫したい。
	①アンケートで「新聞を読み活用することは有意義であると思う。」と答えた生徒が60%以上である。 ②図書委員の協力を得て、気になる新聞記事や注目の新聞記事を月1～2回は展示する。 ③各授業者が学期に1回以上授業の中で新聞記事を活用できるよう、情報提供など、授業者をサポートする。	①「新聞を読み活用することは有意義であると思う」と答えた生徒は80.5%であった。 ②月2回程度輪番制で気になる新聞記事や注目の新聞記事を切り抜き展示することで、生徒に新聞記事に関心をもってもらうことができた。 ③図書館に切り抜き可能な新聞を月ごとにストックしておくことで、先生方にも授業等で利用していただけた。	(評定) A (所見) 学年の取組としても先生方が新聞の活用をしてきている。図書委員も気になる新聞記事を輪番制で切り抜いて掲示したり、文化祭で気になる記事の切り抜きにコメントを添えて展示したりすることができた。今後も図書館に新聞を置くことで、有効に活用してもらいたい。		
	活動計画	活動計画の実施状況			
	①新聞を読み活用しやすい図書館内の環境を整える。 ②図書委員の活動の一つとして、図書委員が選んだ新聞記事を、関連する本や資料とともに展示する。 ③新聞活用を推進し、新聞感想文を書く期間には特に、切り抜き可能な新聞を図書館に置く。	①新聞閲覧コーナーを引き続き設置した。 ②輪番制でしてもらったので、大きい負担感無く、図書委員自身も新聞記事に関心を寄せるきっかけになった。 ③特に新聞感想文コンクールの作品を書く時には、授業での図書館利用が多くあった。			

カ 生徒課

*総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 生活習慣の確立を図り、健全な生活態度を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	①服装頭髪が大きく乱れている生徒はいないが、スカートを折りこんでいる生徒や登校時にブレザーを着用していない生徒が少数見られる。月初めの点検時だけでなく、常日頃から清潔感のある身だしなみができるように連携協力をはかりたい。 ②雨天時や早朝補習がない日に遅刻が増加するといった傾向は解消されていない。 ③生徒会や生活委員による挨拶運動について実施したいが早朝補習や定期考査等があるため実際の運用が難しい。
	①頭髪・服装の違反者を減少させ、再点検指導生徒の割合を1.0%以内ににする。 ②遅刻者の数を昨年度より3.0%減少させる。 ③教員による登校指導を月1回、生徒による「あいさつ運動」を学期に1回実施する。	①再点検を実施したした生徒は7名(0.7%)であった。 ②2学期末の状況で遅刻数が165(52%)増加した。 ③学校安全の日における登校指導は計画通りに実施できたが、生徒による挨拶運動は実施できなかった。	(評定) B (所見) ①服装頭髪について数値目標を達成することができた。 ②遅刻の数が昨年比べて1.5倍に増加した。 ③教員側からの挨拶に対応する生徒は多いが、元々よく自発的に挨拶ができる生徒は少ない。	
	活動計画	活動計画の実施状況		
	①月初めのクラス単位の服装頭髪点検、学期初めの学年一斉指導を実施する。常日頃から清潔感のある制服の着こなしができるように、学年団と連携・協力をしながら常時指導を徹底する。 ②遅刻指導週間を実施するとともに、多遅刻生徒の指導を徹底する。 ③生徒会や生活委員と協力しながら自発的な挨拶を喚起する。	①学期はじめの全体指導やクラス単位での点検を計画通り実施できた。また、廊下などでの常時指導により、極端に服装頭髪が乱れた生徒はいない。 ②月に5回以上の遅刻をした生徒が2名いた。雨天時や早朝補習のない日に遅刻が増加している。 ③本年度生徒会や生活委員による挨拶運動が実施できなかった。		
2 交通ルールを遵守させ、安全意識の向上を図る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	①本年度は自転車による交通事故が昨年に比べて減少した。例年行っている交通安全教室が休校により実施できなかった。来年度は全校生徒を対象とした交通安全教室を予定している。 ②自転車交通マナーに関する外部の方からの苦情が多い。来年度は今年度以上に生徒課による立哨指導を多く行いたい。
	①自転車交通事故数（昨年度28件）を10件以下にさせる。	①自転車交通事故数（16件）12件減少した。	(評定) A	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 今年度全学年対象に交通安全教室を実施する予定だったができなかった。事故件数は昨年より減少したが、交通マナーに関する苦情は多い。	
	①(ア)登校指導を月1回以上、徳島北署やPTAとの合同指導を年3回実施する。 ①(イ)交通事故の状況について、教職員・生徒・保護者の共通理解が図れるよう、情報を提供する。 ①(ウ)交通安全講話を実施する。	①(ア)休校により日程の変更はあったが、計3回の合同指導を実施した。 ①(イ)職員朝礼や職員会議、学年集会で自転車の交通マナーの向上を呼びかけ、随時指導した。 ①(ウ)4月に予定していた交通安全教室は休校		

3 携帯電話の安全な使い方を通して、情報モラルの育成を図る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		①ほとんどの生徒がスマートフォンを所持、使用しているが、使用方法やトラブル等の把握が難しく、生徒の実態が正確につかめない。関係機関の協力を得ながら生徒の実態把握に努めたい。 ②SNSによるトラブルが発生している。特に写真や動画などのアップによるトラブルが多い。日頃から情報モラル教育が必要である。
	①携帯電話の安全な使い方についての講演会を年1回以上実施する。	①4月にスマホ安全教室を予定していたが休校により実施できなかった。	(評定) B		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) ①昨年と比べるとスマートフォンによるトラブルは少なかった。しかしながら、SNSがスマートフォントラブルの温床となっており注意する必要がある。		
	①各関係機関と連携し、携帯電話安全教室を行い、情報社会におけるモラルを身につけさせる。 ②「人権教育ホームルーム活動」や「情報」の授業においても情報モラル教育を推進する。	①休校により予定していた講演が中止になった。 ②年間計画に基づいて実施できた。			

キ 人権教育課

*総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 人権ホームルーム活動の他、委員会活動や日々の活動など様々な機会をとりあえて生徒の人権意識の高揚を図り、啓発活動に努める。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	「人権委員会だより」については、内容に工夫をしたが、目標数値に届かなかった。SHR等を利用し、人権委員がアピールできる機会を十分にとりたい。 人権委員が中心となって進行するホームルーム活動を年1回は実施したい。そのためには、人権委員の事前研修会や各学年団の教員研修会の更なる充実を図っていきたい。
	①「人権意識が高まった」と答えた生徒の割合を80%以上にする。 ②「人権委員会だより」を読んでいる生徒の割合を65%以上にする。	①「人権意識が高まった」と答えた生徒の割合は85.7%で、昨年度より4ポイント増加した。 ②「人権委員会だより」を読んでいる生徒の割合は53.7%で昨年より0.7ポイント減少した。	(評定) B	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) ①新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの行事が中止になったり、実施形式の変更があったが、リモートによる講演会では、積極的に質問したりして主体的に参加できた。 ②「人権委員会だより」は、ホームルーム活動の振り返りや、「新聞記事から考えること」を掲載し、生徒に問題提起をして紙面の工夫をしたが、まだまだピーアール不足であった。	
	①人権ホームルーム活動や学校行事等で、自分の意見を発言し、他人の意見もしっかり聞くことができるなど、生徒に主体的に参加・体験をさせる。 ②「人権委員会だより」を生徒主体で作成し、ホームルーム活動などを利用して、人権委員に記事内容の要旨をクラスで紹介させるなど生徒主体の活動を活発にする。	①グループワーク等を通じて自分の意見を発表し、他人の意見もしっかり聞き、生徒が主体的に参加することができた。 ②担当教員と内容について話し合いながら生徒主体で作成できた。記事内容の紹介については十分な時間がとれたとはいいがたい。		
2 全職員でいじめ防止をはじめとする人権教育の充実に取り組む。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	「人間への信頼」を生徒の心に醸成できるよう、「人権委員会だより」の内容充実や生徒の自主活動を通じていじめを許さない学校づくりを目指す。生徒一人一人を尊重し、また面談等を実施していじめ防止に取り組む。
	①「いじめは人間として許されない」と100%の生徒が認識している。 ②「学校は好ましい人間関係の構築のため学校行事やホームルーム活動・授業に真剣に取り組んでいる」と答えた生徒の割合を90%以上にする。	①「いじめは人間として許されない」と認識している生徒は98.6%で、「思わない」「あまり思わない」と答えた生徒が1.4%いた。 ②答えた生徒の割合は86.5%だったが、昨年より2.9ポイント増加した。	(評定) C	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) いじめを人権侵害として認識できていない生徒が少数でもいるので、生徒の日常の言動に十分注意を払い、不適切な場合はその都度指導することを怠ってはいけぬ。また、教員自らも人権に十分配慮した言動を行い、生徒の思いに寄り添い、ともに問題解決に努めなければならない。	
	①教育活動全体を通じて、お互いの人格を尊重し合える校内環境をつくるため、人権ホームルーム活動だけでなく、学年別講演会などを実施する。 ②生徒の日常の言動と行動に注意を払い、不適切な場合は指導する。また、生徒一人一人を尊重し、面談等を実施していじめ防止に取り組む。	①新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5月に実施していた1年生の人間関係づくりワークショップは中止となり、7月に実施していた学年別のいじめをテーマとした講演会は、いじめ問題について考えるホームルーム活動に変更した。 ②生徒の日常の言動と行動に注意を払い、不適切な場合は指導した。また、必要に応じて関係者と連携し、面談を実施した。		

ク 特別活動課

*総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 学校行事（学校祭・球技大会等）の活性化を通し	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	学校関係者の意見
				すべての学校行事で、新型コロナウイルス拡大の状況を考慮する必要

て、生徒の自主的・自律的な行動を育成する。	①学校評価アンケートにおいて、生徒一人一人が自己実現の場として学校行事を位置付け、「自主的・積極的に取り組むことができた」と回答した生徒の割合が85%以上である。 ②学校評価アンケートにおいて、「学校行事や生徒会行事には、生徒の意見が取り入れられている」と回答した生徒の割合が70%以上である。	①学校評価アンケートでは、生徒一人一人が自己実現の場として学校行事を位置付け、「自主的・積極的に取り組むことができた」と回答した生徒の割合が90.6%となっており目標を達成できている。 ②学校評価アンケートでは、70.3%となっており目標を達成できた。昨年度は65.9%であったので、肯定的意見の割合が伸びて目標をクリアできた。	(評定) A (所見) ①学校行事において、生徒一人一人が自主的、積極的に取り組むことができている。アンケートの結果などから、次年度の課題などについても発見できている。 ②学校評価アンケート「学校行事や生徒会行事には、生徒の意見が取り入れられている」という項目は、目標はクリアすることができたが、その数値から判断すると、肯定的意見の割合がまだまだ低いので、生徒の意見を積極的に取り入れていく方策を検討すべきである。		がある。 ・学校祭の日程 天候が不安定な時期であり、食品バザーや体育祭などもあることから、日程に苦慮するが、進路指導などの観点から大きく変更することは困難であると考えられる。準備期間が不足しないよう、年度ごとにベストな日程計画を考えていきたい。 ・体育祭種目の精選 悪天候による競技の短縮も考えられることから、競技順序や出場人数、男女比を検討し、改善していきたい。 ・修学旅行の行先・日程 修学旅行検討委員会が検討している。普通科・国際英語科ともに北海道方面で、徳島空港発着便がとれるよう日程を工夫していきたい。 ・予餞会 予餞会の日程、内容も検討を要する時期にきている。従来の伝統を生かしながら、より良い方向性を模索していきたい。
2 ホームルームや部活動における友好的な人間関係の構築を中心に、豊かな心を育成する。	評価指標 ①学校評価アンケートにおいて「あなたは、学校行事や部活動に友人や仲間と協力して取り組み、友好的な人間関係を築くことができた」と回答した生徒の割合が85%以上である。 ②教員及び保護者において、生徒が「望ましい人間関係を構築できている」と回答した割合が90%以上である。	評価指標による達成度 ①学校評価アンケートでは「あなたは、学校行事や部活動に友人や仲間と協力して取り組み、友好的な人間関係を築くことができた」と回答した生徒の割合は、92.9%となっており目標を達成できている。 ②学校評価アンケートにおいて、「望ましい人間関係を構築できている」と回答した割合は教員90.7%、保護者88.9%となっており、教員では目標を達成できているが、保護者では目標を達成できていない。	総合評価 (評定) B (所見) ①「学校行事や部活動に友人や仲間と協力して取り組み、友好的な人間関係を築くことができた」と回答した生徒の割合が数値目標をクリアしており、学校内における生徒の人間関係は、おおむね良好な状態である。 ②「望ましい人間関係を構築できている」という目標をおおむね達成できているが、教員の認識と保護者の認識に若干の相違がある。		さらに、良好な人間関係構築のために、学校行事等でホームルームや生徒会などで、自主的な活動を推進していくことで、生徒同士の人間関係を深めるようことを検討している。
3 部活動の活性化を通して、生徒一人一人の個性や創造性を伸長させ、何事にも積極的に取り組む態度を育成する。	評価指標 ①学校評価アンケートにおいて、生徒が「部活動は、学校生活を充実させるものとなっている」と回答した割合が85%以上である。 ②教員及び保護者においても、「部活動は、学校生活を充実させるものとなっている」と回答した割合が90%以上である。	評価指標による達成度 ①学校評価アンケートにおいて、生徒が「部活動は、学校生活を充実させるものとなっている」と回答した割合は、生徒83.4%で目標をわずかに下回っている。 ②学校評価アンケートでは、「部活動は、学校生活を充実させるものとなっている」と回答した割合は教員92.6%、保護者81.6%となっており、教員では目標を達成できているが、保護者では目標を達成できていない。	総合評価 (評定) B (所見) 「部活動は、学校生活を充実させるものになっている」と回答した割合は教員では目標を達成できているが、保護者では、目標を達成できていない。この相違について検討していきたい。		「部活動は、学校生活を充実させるものになっている」と回答した割合は教員では目標を達成できているが、生徒、保護者では、目標を達成できていない。この相違について検討し、課題解決の方策を模索していきたい。 1年生の原則全員入部は撤廃したにもかかわらず、部活動参加率は前年度以上になっている。登録したものの積極的に活動できていない生徒がいる可能性があるため、入部した生徒が活動を継続できているかについても検証していきたい。

4 国際的視野を持ち、国際社会や地域社会に貢献する姿勢を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	すべての学校行事で、新型コロナウイルス拡大の状況を考慮する必要がある。 来年度は、地球市民講座を開講し、充実したものになるよう内容を精選し準備したい。テーマや講演内容を年度当初から検討していきたい。 生徒会や部活動も、清掃活動などに積極的に取り組んだが、さらに、日常的に校内美化に努められるよう意識改革したい。 各種ボランティア活動にも、生徒会などを中心に積極的に参加できるようにしたい。
	①地球市民講座において事後アンケートを行い「国際的視野を持つことができた」と回答した生徒の割合が85%以上である。 ②生徒会主催行事あるいは部活動において地域や社会貢献に通じる活動を年3回以上計画する。	①本年度は新型コロナウイルス拡大の状況下で、地球市民講座を開催することができなかった。 ②地域や社会貢献に通じる活動を、清掃活動などを中心に年3回以上実施した。	(評定) B	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 本年度は、新型コロナウイルス拡大の状況下で、地球市民講座を実施することができなかった。 生徒会、JRCボランティア部などが、地域や社会貢献に通じる活動を、清掃活動などを中心に年3回以上実施した。 とくしまマラソンのボランティアについては、新型コロナウイルス拡大の状況下で中止となった。	
	①地球市民講座が充実したものになるよう、国際交流課とも連携しながら計画する。 ②生徒会やJRC・ボランティア部などを中心に、さらに地域や社会貢献に通じる活動に積極的に取り組む。	①本年度は新型コロナウイルス拡大の状況下で、地球市民講座を開催できなかった ②生徒会、JRC・ボランティア部などがボランティア活動に積極的に取り組んでいる。とくしまマラソンのボランティアについては、新型コロナウイルス拡大の状況下で中止となった。	生徒会、JRCボランティア部などが、地域や社会貢献に通じる活動を、清掃活動などを中心に年3回以上実施した。 とくしまマラソンのボランティアについては、新型コロナウイルス拡大の状況下で中止となった。	

ケ 進路課

*総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価		学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 主体的な学習習慣と確かな学力の育成を図る。 （1）家庭学習の習慣化を図る。 （2）確かな学力を身につけさせる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	学校関係者の意見	①②④家庭での学習習慣の確立 ・1年生1学期前半の初期指導が高校生活全般に大きく影響するのは明らかであり、学年や教科と連携して、進路意識の高揚と家庭学習の重要性を繰り返し指導する。特に個人面談の機会を重視し、担任から具体的なアドバイスができるよう、面談で取り上げるべき論点を学年で統一し、生徒に明示する。 ・授業で扱うべき内容を精選し、家庭学習と連動することの重要性を生徒が実感できるようにさらなる授業研究や改善に努める。 ・家庭での学習効果やその成果を生徒が実感できるようなテスト（定期考査や実力テストなど）を作成・実施する。 ・部活動後の下校時刻を徹底する。 ③時間の使い方を客観視する。 ・スマホの長時間利用が家庭学習や進路実現を阻害しているのは事実であり、その危険性を生徒が実感できるように、生活記録を基に個別指導をさらに進める。 ・学習時にはスマホを手元から離すなど、具体的な改善策を生徒に明示し、改善を図る。 ⑤補習出席率の向上と積極的な参加 ・補習で扱う内容を精選し、生徒がその効果を実力テストや校外模試で実感できるよう計画的に実施する。 ・遅刻や欠席が多い者に対しては、学年や担任と連携して早めの指導を行う。また保護者への協力を求めるなど、出席率の向上に努める。 ⑥模試で成果を実感できる学力の養成 ・大学入試問題の分析をさらに進め、求められる学力や出題傾向を正しく把握し、定期考査や実力テスト
	①平日の家庭学習（塾等での学習を含む）が1時間以上の生徒を90%以上にする。また、休日の家庭学習（塾等での学習を含む）が「(学年)+1」時間以上の生徒を80%以上にする。 ②「午後9時までに家庭学習を始める」習慣が身についている生徒の割合を70%以上にする。 ③平日のスマートフォン使用時間が2時間以内の生徒の割合を80%以上にし、学習時間の確保につなげる。 ④「学校の授業内容を理解している」と回答した生徒の割合を80%以上にする。 ⑤1、2年生の学年単位で、補習の出席率を95%以上にする。 ⑥校外模試における各科目の平均点について、校内平均点が全国平均点以上となるようにする。 ⑦教員の教科指導研修会への参加率を高め、教科会等を通じた情報の共有を拡充する。	①9月の第2回調査では、学習時間が1時間以上は、1年生90.5% (92.6%), 2年生89.5% (92.1%), 2時間以上は、1年生65.5% (78.8%), 3時間以上は、2年生28.5% (58.0%) であった。平日の学年目標は達成できているが、休日は達成できていない。(括弧内は休日) ②1年生63.5%, 2年生70.9%で、1年生で目標を下回った。 ③1年生64.5%, 2年生74.2%で、両学年とも目標を下回った。 ④臨時休業に伴うオンライン講座に関する調査を行い、69.7%が肯定的な回答であった。 ⑤1、2学期の補習出席率は1年生97.6%, 2年生95.9%で、達成できている。 ⑥11月のベネッセ総合学力テストでは、1年生：国語-1.0点、数学+5.9点、英語+5.0点で国語のみ達成できなかった。2年生：国語-0.6点、数学+6.8点、英語+4.4点、地歴・公民、理科では現代社会、地学基礎、物理以外で全国平均を下回った。 ⑦感染症対策のため、ほぼ全ての教科指導研修会が中止となった。	(評定) B		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) ①塾などでの学習を含めると、概ね目標時間は達成できている。しかし休日の過ごし方を含め、自主的に取り組む学習の重要性を認識し、家庭学習時間を拡充させる必要がある。 ②部活動後は早く帰宅するなど時間を有効利用し、遅くとも午後9時までに学習を開始する習慣を定着させる必要がある。 ③生活記録などを通して時間の使い方を客観視し、生徒自身が改善の必要性を実感する機会が必要である。 ④「予習」「復習」の必要性や「授業」とのつながりを生徒が実感して取り組めるよう、指導方法のさらなる工夫や働きかけが必要である。 ⑤補習の遅刻・欠席が一部の生徒に集中している現状があり、保護者と連携して粘り強く指導していかなければならない。 ⑥1年次ではほとんどの科目で平均点を上回るも、2年次になると下回る教科・科目が増加する。家庭学習をさらに充実させ、各教科の基本的事項の習得を徹底するとともに、教科バランスを考えた学習・生活指導を行う必要がある。また大学入試改革の動向を注視し、教科主任を中心に出題傾向や内容の分析を継続し、授業の進め方などに		

	箇所の見直しをさせる。また教科会で模試の検討を行い、事前と事後の対策を練る。 ⑦校外における教科指導研修会の情報を周知し、事後は教科会と資料の閲覧を通して情報の共有化を行う。	意識の高揚について指導した。補習の欠席・遅刻が目立つ生徒には、担任や学年主任と連携して個別指導にあたった。 ⑥模試受験前には過去の問題研究を、さらに受験後は訂正ノートの作成を促進するなど、教科担任を中心に学力の向上に努めた。 ⑦教科指導研修会が中止になり、教員の参加はできなかった。	についても引き続き研究していかなければならない。 ⑦教科指導研修会の機会に関わらず、校内外で情報を収集・共有できる機会を拡充する必要がある。	に反映させる。 ⑦教員の教科指導研修会への参加・教科指導研究会などはWebやリモート配信に移行しつつあり、その情報収集に努めるとともに、参加後は教科会で共有・改善を図るなど、積極的な利用を推進する。
2 キャリア教育を推進し、早期に進路目標を設定させ、主体的に自分の進路を決定させる。	評価指標 ①1, 2年次にオープンキャンパスや看護体験、大学の講座、または体験授業等の活動に1回以上参加した生徒の割合を85%以上とする。 ②ポートフォリオを利用し、校内外で取り組んだ活動の振り返りを行う生徒の割合を100%とする。 ③2年生の11月末の進路調査で、「進路目標が明確になっている」と回答した生徒の割合を100%とする。 活動計画 ①あらゆる機会を通じて、「将来の自分の生き方」を考えさせるとともに、体験的活動の情報提供に努め、2年生終了までには必ず1回は参加させる。 ②ポートフォリオの意義とその利用方法を周知し、振り返りと記録を徹底させる。 ③生徒や保護者に進路情報を提供し、各自の進路目標を設定させ、その実現に向けて主体的に学習する態度を育成する。また、「若楠」や「進路ニュース」を活用し、進路意識の高揚を図る。	評価指標による達成度 ①ほぼ全てのイベントが中止となったが、94.5%の生徒がWebや紙面で情報の収集に努め、進路研究を深めるという目的は達成された。 ②紙媒体で100%の生徒がポートフォリオを作成し、活動を振り返った。 ③1月に実施した進路調査では、2年生の生徒の100%が進路目標を持っていると回答した。 活動計画の実施状況 ①Webオープンキャンパスやリモート配信で実施されるイベントの案内・周知を行い、積極的な取組を促した。 ②振り返りレポートの作成を通し、自己の取組や成長を客観視できるよう促した。 ③「若楠」「進路ニュース」「学年PTA資料」および「学年集会スライド」では、入試情報や合格状況、合格体験記などを掲載・周知し、進路意識の高揚に努めた。	総合評価 (評定) B (所見) ①ホームルームや学年集会での指導を通して進路研究を深めるための自主的な取組を促した。Webでのリモート配信や紙面での進路研究が主であったが、参加率は上昇した。(前年83.3%) 大学入試制度や社会情勢をはじめ、変化が大きな時期であり、今後も引き続き指導する必要がある。 ②各種行事の際に記入と保存を徹底できた。今後はより長期的な視点から自分の成長を把握し、進路選択につなげる指導が必要である。 ③2年生2学期までには具体的な進路目標を設定するよう継続して指導しており、2年生全員が志望校や職業選択などの進路目標を定めている。しかし、安易な目標設定になっていないか、個人面談を継続して確認・指導する必要がある。	①③進路意識の高揚と進路目標の設定 ・感染症対策のため、オープンキャンパスなどのイベントはWebやリモート配信に移行しつつある。各種イベントに関する人数制限や申込期限の有無を含め、生徒が様々な進路情報に敏感であるよう、継続した指導と日常的な情報提供をさらに進める。 ・生徒が目標を明確にし、その達成に向けて学力を高めていけるよう全体指導および個別指導を継続する。 ・進学希望者に対しては、大学入学共通テストの受験を前提に準備に取り組めるよう意識の向上を図る。 ・進路ホームルームを充実させ、進路実現のためにしなければいけないことを浸透させる。特に学年、時期に応じて求められる内容を提示し、達成目標を明確にする。 ②ポートフォリオの利用 ・紙媒体での作成と保存を継続し、より丁寧な振り返りを進める。 ・これまでの取組を振り返ることで今後の進路選択に係るヒントを探るなど、自分を客観視する機会を設ける。
3 地域社会に貢献できる人材の育成に向けてキャリア教育を推進するとともに、生徒の個性や創造力を伸長させて、進路希望を実現させる。	評価指標 ①就職ガイダンスや公務員セミナーなどの体験的活動を通して、主体的に自ら考える力を育て、就職を希望する生徒全員が、希望する進路を実現できる。 ②就職希望者や保護者と定期的に面談を行い、2学期末までに就職未決定者0名を実現する。 活動計画 ①望ましい職業観・勤労観の育成に向け、職業別説明会(1年)、公務員セミナー、就職ガイダンス(2年、3年)等の体験活動により、職業理解や働く意義を学ばせる。 ②卒業後就職したい仕事を自らが見つけ、その目標に向け、継続的に努力し、自主的な行動力が身に付くように導く。 ③企業就職希望者と早い時期から面談を重ね、希望の業種や職種を絞り込み、希望する企業から求人を得られるよう、精力的に職場開拓を行う。 ④公務員希望者には、公務員試験対策の専門家を学校に引き講習会を実施し、社会性の確立を目指す。 ⑤就職・公務員模試を年間6回実施し、進路を実現する確かな学力の向上を図る。	評価指標による達成度 ①感染症対策のため実施できないイベントもあったが、個別・全体指導を通じて情報提供や意見交換に努め、就職に向けての心構えの構築を図った。 ②2学期末現在では、就職希望者は全員が就職内定を頂いた。 活動計画の実施状況 ①リモート配信や紙面を活用して情報の収集を進め、職業観や勤労観の育成を行った。職業理解や就職に向けた意識の向上に役立った。 ②就職内定前はもちろん、進路決定後も生徒と話す機会を確保し、社会人としての心構えの育成に努めた。 ③生徒、保護者との情報の共有や面談を通して、早い段階から希望の進路先とコンタクトを取り、企業および人事担当者との関係構築に努めた。 ④感染症対策のため講師を招聘することはできなかったが、受験スケジュールの確認や試験対策に係るサポートを行った。 ⑤就職・公務員模試は概ね予定に則って実施でき、就職試験に向けて学力向上につなげることができた。	総合評価 (評定) B (所見) ①社会人になることや就職することに対するイメージを描けるよう、職業観・勤労観をより具体化させる必要がある。 ②生徒が当事者意識を持って就職活動に臨めるよう、個人面談をさらに進める必要がある。 ③自分の適性や就職希望先の情報を分析し、望ましいマッチングができるシステムづくりが重要である。保護者にも正しい情報を周知するため、情報提供や考えを確認する機会を継続して確保する必要がある。 ④公務員試験では一般教養に加え、数的推理や判断推理などの適性検査対策も必要である。校内でも専門的なアドバイスを受ける機会を増やす必要がある。 ⑤担任との情報共有に努め、就職を希望する生徒の把握、およ	①②③就職希望者に対する支援 ・就職を希望する者に対し、2年生後半から進路決定や試験対策に向けた具体的なサポート、およびプログラムを継続・拡充させる。 ・保護者への情報提供や意向を確認する機会を継続して確保し、就職指導に関する情報の共有に努める。 ①②④⑤就職に関する行事のあり方 ・就職に対する具体的なイメージを抱ける機会を積極的に設けることが必要で、今後も行事を継続する。特にWebやリモートを用いたガイダンスやセミナーに移行しつつあるため、実施方法や実施時期について検討し、計画を具現化する。

			び学力向上のための年間を通じた支援が必要である	
--	--	--	-------------------------	--

コ 環境・防災課

*総合評価：目標を大きく達成…A，概ね目標を達成…B，目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評 価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 SDGs への理解を深め、校内外の環境美化及び環境問題に取り組む態度と実践力を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	①こまめに節電・節水の声掛けや教室掲示などを行うとともに、トイレや空き教室（芸術・体育時など）、長時間使用しない体育館や多目的ホールなどの消灯を実施すること。 ②校内で行える身近なボランティア活動であることを、掲示物や呼びかけなどで周知し、いつもと異なった生徒も参加できるような、状況を作り、参加者のさらなる増加を図る。 ③案内や呼びかけは継続して積極的に行うとともに、案内をしていない行事に参加した生徒に関しては、1-U Pレポートを提出させる等、実態を把握していく。
	①節電・節水を意識した学校生活を送り、前年度比2%使用量を節減する。 ②年間3回以上「ゴミゼロの日」を設定し、学校全体で環境問題について考えさせるとともに、環境・防災委員以外の参加者が毎回60人以上である。 ③アンケートで「日々の清掃に熱心に取り組む、ゴミの分別を心がけるなど校内美化に協力している」と回答した生徒の割合が85%以上である。	①前年同月比でみると、水道の使用量は6.3%（12月分）増加、電気使用量は0.5%（12月分）増加している。 ②今年度2回実施したが、全ての回で60人を上回っており、最も多い時、全体で105人ということもあった。 ③ゴミ分別に協力していると回答した生徒は、90.5%であり、達成できている。	（評定） B	
	活動計画	活動計画の実施状況	（所見） ①トイレや空き教室、体育館及び多目的ホールなどもこまめに電気を切ることで、更に節電節水に取り組まなければならない。 ②今年度も毎回多数参加してくれているが生徒会や運動部が中心である。普段参加していない生徒も1度は参加できるよう工夫したい。 ③文化祭時には、展示及び防災に関する発表を、テーマ設定からまとめまでの過程をそれぞれが進めて行い、探究の時間と重なるところもあるが、実施する必要がある。	
2 防災教育を推進し、身近に潜む危険から自らを守るのみならず、災害発生時及び事後に、進んで他の人々や地域の安全に役立つことができる人材を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	①避難訓練に対して、生徒一人一人が、主体的に緊張感を持って取り組めるようにするため、各クラスの環境・防災委員に対して、事前に内容について周知し、生徒たちで訓練ができるようなスタイルを構築したい。 ②避難訓練の回数が少ない2・3学期については、防災に関する啓発放送の回数を増やす等のほか、防災に関する新聞記事を利用したり、タイムリーな話題（問題）を提供するなど、意識を高める情報を提供していく。 ③次年度において、防災士講習に4名以上生徒を募集し参加させたい。
	①地震・津波及び地震・火災対応避難訓練を、それぞれ年1回早期に実施する。 ②環境・防災委員から啓発放送等を行い、防災に対する意識を高める。 ③校外で行われる防災関係の行事を案内し、15名以上の参加者である。	①今年度は臨時休業や感染予防の点から、訓練を実施せず、図上訓練（説明）や机の下に入る等の地震初期の対応訓練を行った。 ②啓発放送等は充分実施できなかったが、各種講習会で意識高揚に繋がった。 ③15名には達することはできなかったが、防災士講習会などに多数参加することができた。	（評定） B	
	活動計画	活動計画の実施状況	（所見） ①地震・津波・火災対応訓練等の実施時期は定着してきたが、いざという時、職員・生徒の行動に定着があるかという点については不十分である。 ②概ね良好である。 ③今年度は防災士講習に4名の生徒が参加した。	

サ 保健・教育相談課

*総合評価：目標を大きく達成…A，概ね目標を達成…B，目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評 価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 自分の心や体の健康に関心をもち、課題解決に向けて実践できる生徒を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	生徒が自己の健康管理に自主的、主体的に取り組めるよう支援することが重要である。そのためには家庭との連携が不可欠である。本年度の取組は、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に重点を置いた保健管理や、長期の臨時休業による生活習慣の乱れや運動不足等の健康課題について、保健だよりや文化祭の展示、保健ホームルーム等による啓発に努めた。次年度もさらに発展させるよう取り組み、その結果を保健だより等を通じて家庭へも周知できるようにしたい。
	①学校評価アンケートにおける「あなたは、自分の心やからだの健康に関心をもち、健康な生活を送るよう心がけている」に「あてはまる」と回答した生徒の割合を85%以上にする。 ②学校評価アンケートにおける「学校は生徒の安全や健康管理に十分注意している」及び「学校では健康や安全に配慮した指導が行われている」について、「あてはまる」と回答した保護者の割合を85%以上にする。 ③新型コロナウイルス感染症防止対策としての健康観察徹底と環境面の清潔の保持に努める。	①86.5%の生徒が「あてはまる」と回答した。 ②「学校は生徒の安全や健康管理に十分注意している」については、生徒の87.7%及び保護者の89.9%が「あてはまる」と回答した。また、「学校では健康や安全に配慮した指導が行われている」については、保護者の88.8%が「あてはまる」と回答した。 ③毎月の生徒及び職員の健康観察表の記入・提出や換気の励行・消毒等の環境面の清潔の保持に努め、適切な感染防止対策ができた。	（評定） B	
			（所見） 概ね目標を達成することができた。特に本年度は長期の臨時休業による生活習慣の乱れや運動不足に視点を置いた文化祭での啓発展示や生徒保健委員が主体となって	

	活動計画 ①生徒保健委員会において生徒の自主的な活動を推進し、学校全体の生徒の保健意識の向上や啓発を図るために、次の活動を行う。 (7) シャボネット液・消毒剤の点検・補充 (1) 文化祭で健康意識の啓発展示 (9) 保健ホームルーム活動 (1) 各HRでの感染症予防等の啓発 ②生徒の心身の健康管理及び保健指導の充実を図るために、次の活動を行う。 (7) 健康観察表を用いた健康管理の徹底を図る。 (1) 保健だよりを年間10回以上発行する。 (9) 応急処置を適切に行うとともに、担任や特別活動課、保健体育科等との連携をさらに密にする。	活動計画の実施状況 ①(7)定期的に実施できている。 ①(1)本年度は「生活習慣改善～運動について～」について展示した。 ①(9)保健委員の進行による保健ホームルーム活動を11月に実施できた。 ①(1)新型コロナウイルス感染症や熱中症予防等について、校内放送による呼びかけや保健だよりを説明して配布するよう指導できた。 ②(7)毎月の健康観察表により健康管理の徹底を意識させることができた。 ②(1)年間12回発行した。疾病の予防や対応についても掲載し、保健意識の向上に務めた。 ②(9)生徒の病気のケアへの対応は常に連携を取ることでできた。	実施する保健ホームルーム活動は好評だった。次年度も学校医・学校薬剤師とも連携し、更なる保健意識の向上のため、生徒の実態に応じた内容で実施したいと考えている。 学校保健委員会に生徒保健委員会の代表も参加し、活動を報告した。PTA役員の方からいただいた御意見や御提案を今後の活動に生かしていきたい。 保健だよりは学校のホームページにも掲載し、文化祭の展示や保健ホームルームの実施・学校保健委員会の協議事項等についても、保護者への周知や啓発も行った。		また、生徒課の交通安全教育や環境・防災課の防災教育、保健体育科の保健学習とも連携を取って保健管理や保健教育に取り組み、これからも生徒が心身ともに充実した生活を送ることができるよう支援していきたい。
2 生徒が心身ともにはつらつとした学校生活を送れるよう支援する。	評価指標 ①カウンセリングデーの相談室待機を100%にする。 ②不登校傾向にある生徒や気になる生徒を早期に把握して、カウンセリングの実施等の適切な支援を図る。 ③不適応の症状が見受けられる生徒の把握に努め、早い段階で校内の関係者との連携を図り、対応に努める。 ④特別支援教育の取組を保護者に説明する機会を持つ。 活動計画 ①カウンセリングデーの広報を積極的に行う。 ②(7)課内会議やケース会議を随時開催する。 (1)必要に応じてスクールカウンセラーや関係機関との連携を図る。 ③担任・学年団や人権教育課からの情報収集に努め、共通理解を図り、生徒の支援をする。	評価指標による達成度 ①カウンセリングデーの待機率は100%であった。 ②担任等と連携をとり適切に対応できた。 ③保護者、生徒をスクールカウンセラーに繋げることができ、適切に対応できた。 ④PTA総会が文書開催であったため直接説明することはできなかったが3月の入学説明会では実施する予定である。 活動計画の実施状況 ①保健だよりにより「ちょっと一息」というコーナーを設けカウンセリングデーの案内や心の健康の啓発を行った。 ②(7)課内会議等は適切に行われた。 ②(1)スクールカウンセラーと連携を図り、早期の対応に努めた。 ③日頃から教職員からの情報収集を実施し生徒の支援に繋げた。	総合評価 (評定) B (所見) スクールカウンセラーが配置になって3年目であるが毎年利用が増えておりカウンセリングが浸透しつつあると思われる。また、年2回カウンセリングだよりを発行し家庭へも案内している。 担任からのカウンセリングのすすめて早期に対応できたおかげで安定して学校生活を送ることができるようになった生徒もいる。 特別な支援を要する生徒については、担任、教科担任を中心に共通理解を持ち生徒に関わった。		スクールカウンセラーの継続的な配置のおかげで、教育相談の体制が充実したと思う。今年度は生徒に限らず保護者、教員の利用も増えた。 また、環境整備としてはパーテーションの設置などを行いさらに整ってきた。 スクールカウンセラーとの連携を中心に校内連携、必要に応じて校外連携も深め生徒の支援に繋げていきたい。 特別な支援を要する生徒についてはさらに理解を深め専門機関とも連携をとり適切に対応していきたい。
3 生徒が充実した学校生活を送れるよう支援する。	評価指標 ①食堂の営業やパン販売の連絡を100%正確に行い、マナーを守って利用できるようにする。 ②セミナーハウスを正しく利用できた割合を90%以上にする。 ③奨学金の事務処理を正確に行い、奨学金を申請する生徒の100%が正しく申し込み、進路実現に繋がれるようにする。 ④福祉的な募金活動に年2回以上協力する。 活動計画 ①営業日やメニューの教室掲示を適切に行う。 ②(7)定期的に点検を行い、厚生委員による大掃除を年2回実施する。 (1)「利用心得」を掲示することで、使用の際のマナーの向上を図る。 (9)チェックリストを点検時に活用する。 ③(7)奨学金の情報提供や連絡を正確に行う。 (1)個人情報を含まれる書類の取り扱いに十分注意を払う。 (9)申請書類を複数体制でチェックする。 ④厚生委員の活動として計画する	評価指標による達成度 ①毎月教室への掲示をし100%適切に行われた。 ②セミナーハウスの利用は90%以上が正しく利用できた。 ③100%適切にかつ公正に申請できた。 ④「複十字シール運動」と「赤い羽根共同募金」に協力した。 活動計画の実施状況 ①毎月教室への掲示ができた。コロナ対策としては利用方法の掲示、巡視、パーテーションの設置などを行った。 ②(7)1学期末、2学期末に厚生委員と課員で大掃除を行った。 ②(1)「利用心得」に沿って使用できており備品の使用も適切であった。 ②(9)定期的にチェックリストを活用し点検を実施した。 ③(7)本年度はメールやZoomなども利用し情報提供や説明を行った。 ③(1)書類はその都度鍵のかかるロッカーに保管し取り扱いには十分に配慮をした。 ③(9)HR単位で分担し複数の課員でチェックする体制をとった。 ④HRで募金活動の意義を広報し、協力を呼びかけた。	総合評価 (評定) B (所見) 食堂の営業日やメニューの教室掲示により生徒への適切な案内ができた。コロナ対策として対面利用禁止、隣との距離の確保、麦茶の提供中止など様々な対策をした。当初は多少指導が必要な事案もあったが、新しいルールを守って利用できていた。 厚生委員による年2回の大掃除と「セミナー室使用心得」の掲示で使用状況はよい状態である。今後も環境整備を続けていきたい。 各種奨学金の申請については課員で分担し複数でチェックする体制をとったので課員の偏った負担にはならなかった。情報の取り扱いについても慎重に実施できた。		食堂に関してはコロナ対策を中心に取り組んだ。引き続き感染予防を徹底できるように、課員や厚生委員の活動を充実させていく必要がある。 セミナー室を利用する部活動と連携し、引き続き適正に快適に使用できるように努めたい。 奨学金については、生徒の就学・進路支援のため書類の不備がないように注意し次年度からも適正かつ公正に実施できるように努めたい。 募金活動については厚生委員に対しその意義や活動についての事前学習をした後、実施していきたいと思う。

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
Ⅰ 新型コロナウイルス感染拡大防止に努め、教育活動の充実をめざす。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	教育活動の継続の目標は、達成されたと思うが、今後のコロナウィルスの感染状況を見据え、引き続き予防対策を徹底する必要がある。
	①感染者等に対する偏見や差別の防止に努める。 ②授業や行事の計画を見直し効果的な実施に努める。 ③新型コロナウイルスの感染拡大防止と効果的な補習授業の計画・実施を並行して行う。 ④教職員、生徒、保護者への感染症の流行状況に応じた情報提供と感染拡大防止への適切な保健指導に努める。 ⑤教職員及び生徒がともに、感染防止等を充分意識しながら、環境衛生活動（清掃活動等）に取り組む。 ⑥テレビ会議システムや資料提供等を通して、異文化学習の機会を年間3回以上提供する。 ⑦教職員及び生徒がともに、感染防止等を充分意識しながら、図書館利用の活性化を図る。 ⑧新型コロナウイルス感染に関する正しい知識を持ち、感染拡大防止に向けて教職員・生徒が全力で取り組み、生徒全員が、目標を持って学校生活が送れるよう援助する。 活動計画 ①各教科の授業やホームルーム活動、学校行事等で、新型コロナウイルス感染症に関する正しい知識を身に付けさせ、偏見や差別が生じないように指導する。 ②(7)3密を防ぎ、効果的な実施ができるよう計画する。 (イ)オンライン講座等を利用して学習をサポートする。 ③テレビ会議システムを導入し、複数の教室で同じ講座を同時に実施するなど、時間割と教員配置を調整する。 ④(7)検温等、日常の健康観察の徹底と手洗いの励行を推奨する。 (イ)教室、トイレ等の清潔の保持と消毒の実施をする。 (ウ)出欠状況や疾病の罹患状況、把握に努める。 (エ)感染症や登校への不安を抱えた生徒への適切な対応をする。 ⑤年2回の各種委員会の機会だけでなく、常時の活動や学校行事の際も委員会として協力できるようにする。 ⑥(7)新型コロナウイルス感染症により、外部講師を招聘することが困難な場合は、テレビ会議システム等を用いて、講演会を実施する。 (イ)海外高校生や留学生とのICT交流等を通して異文化理解を深める。 ⑦ウイルス等の感染を充分意識し、窓の開放を心がけ、図書館入館時には手指の消毒を行わせ、図書室内で3密にならないよう、間隔を開けて着席するよう指導する。 ⑧(7)家庭とのコミュニケーションを密にし、生徒一人ひとりと心身の健康に留意し、素早くフォローできるように努める。 (イ)あらゆる場面を想定して、今できる学習方法について模索し、生徒の学習意欲を高める働きかけを工夫し、学年団で協力して生徒の学力保障に当たる。	①感染者等に対する偏見や差別の防止につとめた。 ②③授業や行事の計画を見直し感染防止に努めた。 ④保健だよりや校内放送を通じて、感染症の流行状況に応じた適切な保健指導を実施した。 ⑤感染防止等を意識しながら活動することができた。 ⑥「グローバルクラスメイト」事業、「グローバル・オープンキャンパス」事業、「外務省高校講座」の3事業を実施した。 ⑦感染防止等を意識しながら、図書館を利用することができた。 ⑧北高感染防止強化週間を設けるなど、目標を持って学校生活が送れるよう努力した。 活動計画の実施状況 ①ホームルーム活動等を通じて、人権意識の高揚に努めた。 ②(7)(イ)分散登校から始め、特に昼食時に密にならないよう指導した。休校期間中に早い段階からわらい講座を実施できた。 ③学校行事においては、Zoomでの実施に変更した。 ④(7)健康観察表を活用し、毎日の検温に努め、手洗いの徹底を図った。 ④(イ)環境用の消毒物品を各HRに配布し、多くの人が共用する部分の消毒を実施した。 ④(ウ)毎日の出欠状況や疾病の罹患状況の把握に努めた。 ④(エ)熱のある生徒は、出席停止扱いにするなど登校への不安を抱えた生徒にも適切に対応した。 ⑤各種委員会では、常時の活動や学校行事の際に協力できている。 ⑥(7)「外務省高校講座」において、外務省職員から国際情勢やモンゴルの文化、日本国政府のSDGsの取り組み事例等についての講演会をオンライン形式で実施した。 ⑥(イ)「グローバルクラスメイト」事業として、アメリカ高校生とICTを用いた交流を実施。また、長期留学生2名とのオンライン事前交流を実施した。 ⑦図書館の換気心がけ、入館時には手指の消毒を行わせ、席も間隔を開けて座るよう指導ができた。 ⑧(7)(イ)休校期間中もZoomでの朝のHRを実施するなど、生徒の家庭での状況の把握に努めた。また、課題を印刷し配付したり、Zoomでのわらい講座の実施など、学習機会の確保に学年全体で努めた。	(評定) A (所見) 各課や学年において感染症防止に努めた。全員の努力により本校生徒と職員の中で感染者が出ていない。今後も感染症予防に努めなければいけない。	